

## 「第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会」報告

製図分科会 主査 小島 聡  
(千葉県立東総工業高等学校)

開催日：平成 21 年 3 月 12 日 (木)

場 所：学校法人・専門学校 中央工学校

内 容：・事例発表

建築設計競技指導への実践報告 (はじめての挑戦・入選を目指して)

村井和幸先生 (新潟県立新発田南高校)

設計製図指導事例報告

(全国高校生建築設計製図コンクールから道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール指導について)

小関茂雄先生 (千葉県立東総工業高校)

- ・質疑応答
- ・製図分科会からの報告
- ・「中央校学校主催 第3回 建築系高校生対象コンペティション」全応募作品見学
- ・会場校施設見学

参加者：8 都県より 21 名参加

製図分科会では、『初期製図教育の充実』と『成果確認の場』の設定により生徒の能力は伸びる」との仮説に従い、研究に取り組んでいます。その過程として、昨年度 2 回実施した「建築製図指導者研修会」の成果として、岩手大会にて平面図指導の「授業展開例」を提示させていただきました。この展開例は、その『初期教育の充実』のための 1 つの案です。求める知識や技能 (教師の立場) と求められる知識や技能 (生徒の立場) の乖離 (かいり) を埋めるためには、お互いが納得した基準が必要となるはずですが、この共通基準の下で、生徒と教師が向かい合い「何ができて」、「何が出来ない」のかを明確にしながら授業を進めることが初期の段階で重要であると考えます。次年度の北陸大会 (2008.7.31/8.1) では、立面図・断面図の「授業展開例」を提示できるよう準備を進めています。各学校での実践の様子をお知らせ頂き、今後の研究課題とさせていただきますので、ご意見・ご感想をお待ちして生じます。

また、今後は『成果確認の場』として、「全国高校生卒業設計コンクール (仮称)」実現の可能性を模索しています。「初期教育」で基礎を固め、卒業時に学習の「成果」を広く校外の生徒と建築専門団体の目から評価を受けることは、生徒にとって大きな励みであり目標となることと思います。各地の建築関連団体による高校生作品の審査会が行われており、いずれの会場でも高校生のレベルの高さにプロ達は驚きの声を発しています。プロ達の受け入れ態勢は十分とはいえませんが可能性が無いわけではありません。私たち学校側からの積極的な発信さえあれば、可能な事ではないでしょうか！ 「将来の地域産業を担う人材の育成」のために、先生方も積極的に建築関連団体とのコミュニケーションが必要なではありませんか。全国各地での様子を別紙にまとめましたのでご確認いただくと共に、各地での様子をお知らせ下さい。募集要項や審査の様子等の資料収集にご協力お願い致します。



本日の研修会では、中間期の指導としての「発想力」の育成に目を向けてみたいと思います。1, 2年生に限定した中央工学校主催のこのコンペは、まさにこの「発想力」育成の確認場と位置づけることができるのではないのでしょうか。基礎を身につけ、発想力を育成することにより、卒業設計への取り組みが可能になると思います。そして、高校生活の集大成として「卒業設計」に組み込み、達成感と満足感をもって建設業界へ生徒を送り出しましょう。さらに、この卒業設計の評価をプロの建築家達から受けることができれば生徒達はよりいっそう自信を持って高校を卒業していくことでしょう。



## 参加者の感想

### 1. 村井先生（新発田南高）の実践報告について

ア.大変参考になった（46%） イ.参考になった（53%） ウ.どちらでもない（0%）

#### 自由記述欄

- ・ 野球部とコンペ指導の両立お疲れ様でした。コンペ指導は生徒から出されたアイデアをただ褒めるだけでは、生徒は伸びません。そのアイデアをさらに引き出してあげ、より楽しい作品にしてあげるのが教員の指導だと思います。来年度さらにグレードアップした指導を期待します。頑張ってください。
- ・ 大変良い実践報告ありがとうございました。特に印象に残ったことですが時間をつくるのが難しい状況で、コンペの指導をなさったことにすごく苦勞なされていると感じました。私もコンペ指導は、いつも夜になってしまいます。
- ・ 質問をしたいのですが、時間の関係上カリキュラムの中で生徒の基礎製図技術を見ると、2年4時間で3年6時間の設定でどうして大変な「日本建築協会」のコンペを選定に至ったのかを疑問に思い、同時に努力されたんだと思いました。発表とコンペお疲れ様でした。
- ・ 自己研修のあり方について大変参考になりました。
- ・ コンペディションの初期の発想として、非常に参考になった。個々のモチベーションをあげる方法など参考になった。自己研修に関しても改めて大切さを知ることが出来た。
- ・ 野球部長をやりながらの指導は大変だろうと思う。ただでさえ多忙なのに、頑張られているなと感じました。
- ・ 生徒の発想を尊重するという点は共感できる。はじめに褒めれば、改善点を指摘した際生徒は結構すんなりと受け入れてくれる。
- ・ 生徒自身に考えさせるということは、私自身課題の一つとしてあげられるので、今後の研究成果に期待したい。
- ・ 褒めて生徒を伸ばす。アイデアを馬鹿にしない。コンペを指導する上でとても大切だと思いました。
- ・ 部活との両立が大変そうでした。自分も部活指導をしています。コンペを指導した時は両立は難しかったです。

たです。自分自身時間が取れずにイライラしてしまった記憶があります。そんな時でも生徒の考えを尊重するという指導はとても参考になりました。

- ・ パース、模型の指導力、発想力・想像力の育成と考えさせられた。
- ・ 時間をつくってご指導されていること、とても素晴らしいと思います。生徒の待ちの姿勢を変えていくことが難しいと思います。
- ・ 担当される先生の意識変化から、コンペへの指導方法、課題や反省といった飾らない発表内容が聴けてとても参考になりました。有難うございました。
- ・ 建築の楽しさを知らせる方法を学ぶことが出来た。

## 2. 小関先生（東総工高）の実践報告について

ア. 大変参考になった(64%) イ. 参考になった(28%) ウ. どちらでもない(7%)

### 自由記述欄

- ・ きびしいカリキュラムの中のコンペ指導お疲れ様でした。入選されるつもりで指導すれば、教員および生徒の意識はさらに高まります。今後の活躍を期待します。頑張ってください。
- ・ 外部の評価を得ることで、様々な個性的な考え表現方法も理解してもらい、それに伴う達成感や充実感を感じるのは、私の生徒も同じでした。
- ・ コンペ出展に向けてのスケジュール計画が大変参考になりました。
- ・ 今後とも各先生方の取り組みを聴く機会を多く持っていただくと各学校、先生方の様子が理解でき、いい刺激になります。
- ・ 今後予定される各研修会にも是非参加したいと思っています。宜しくお願いします。
- ・ コンペへの熱意が伝わってきた。生徒のモチベーションを高めさせていると感じた。
- ・ 私自身、建築科から建設科への異動が決まっているので、授業計画等参考になった。
- ・ 2年生から3年生へステップアップしていく様子や、要求するレベルを高めていくことに成長を感じることが出来ると思いました。まず、やろうと声掛けし、やらせていくようにしたいと強く思いました。
- ・ 建設科コース等で土木なので、ものづくり色の強い学校の中でコンペにも力を入れる難しさが大変そうでした。時間配分やCAD・模型をうまく取り込んで良い作品を作る参考になりました。
- ・ 喜び、達成感をいかに持たせるまでの指導力を付けるかと考えさせられた。プレゼンボードの生徒の実例を見せてもらい参考になった。
- ・ 製図板を持ち帰りやってくる生徒達、素晴らしいです。よくついてくるなあと思います。作文、エスキースのところをどのように具体的に指導されているのか知りたいです。
- ・ カリキュラムからコンペ指導まで、大変丁寧に説明いただき大変参考になりました。本校の今後の取り組みに反映していきたいと考えます。
- ・ 継続が大切だと改めて感じた。



3. その他、ご意見やご感想をお聞かせください。

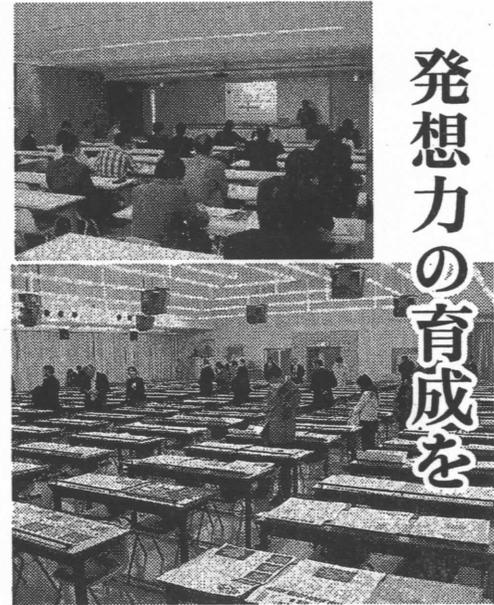
- ・空間造形演習、非常に興味があります。力を合わせて造形活動を行うという体験が欠如している者に設計ができるはずがないと思います。自身も含めて。
- ・このような勉強会に熱心な取り組みの継続が生徒作品の質の向上に繋がるとと思いますので、事務局は大変かと思いますが、続けていただきたいです。
- ・教員のスキルアップのためにも、コンペは非常に大切であることを強くこの研修会で感じました。
- ・有難うございました。
- ・本やフリーソフトの紹介は大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・どの授業でも、最初から答えを求める生徒がほとんどとなっています。自由設計になると、何も考えられない。考えたくないという生徒をどうしたらよいか？日々考え中です。どのように各校の生徒達を指導されているのか、本日は知ることが出来て良かったです。
- ・始めのコンセプトが特に必要なのではないかと思います。計画性に乏しいので又楽しく作る方法が発想を生むのでは。
- ・現場の指導の苦勞がわかった。教員も生徒も共に学習していくということが感じられた。
- ・今回の研修会を企画・運営をしてくださった先生方、大変参考となりました。有難うございました。今後もこのような研修会に参加させていただきたいと思いますので宜しくお願いします。



## 建設通信新聞

発行所 日刊建設通信新聞社  
〒101-0054  
東京都千代田区神田錦町3-13-7  
電話(03)3259-8711  
FAX(03)3259-8730  
振替貯金口座00190-2-97953  
©日刊建設通信新聞社 2009

### 東日本建築教育研究会が 教員向け製図指導研修会



### 発想力の育成を

建築科のある高等学校約140校で構成する東日本建築教育研究会(会長・佐藤則夫都立葛西工業高等学校校長)は12日、東京都北区の中央工学校で「第4回建築系教育のための建築製図指導研修会」を開いた。工業高校や中央工学校で建築を指導する教員約20人が参加し、設計製図の指導事例の報告や意見交換などが行われた。

「発想力」だと強調。さらに「昨年に行った研修を振り返り、目を向けた研修を行う。建築設計競技や卒業設計に取り組み、達成感と満足感をもって建設業界へ生徒を送り出していこう」と参加者に呼びかけた。

冒頭、同研究会副会長で製図分科会主査の小島聡氏(千葉県立東総工業高校建設科教師)は「初期製図教育の充実と、成果の確認の場の設定により生徒の能力は伸びる。製図教育を担うものは研修会の終了後には、『第3回建築系高校生対象コンペティション』(中央工学校・中央工学校OSAKA主催)の応募作品591点(前回485点)の見学などが行われた。写真①。

### 東日本建築教育研

## 高校生設計競技で作品展

### 7月29日―豊かな想像力発信

東日本建築教育研究会(会長・佐藤則夫東京都立葛西工業高校校長)は、「全国高校生建築設計競技優秀作品展」を企画している。全国で実施している高校生対象の建築設計競技の優秀な作品を集め、生徒たちの想像力と発想力を確認するとともに、高校生が取り組んでいる作品の質の高さをより多くの人に理解してもらうことが目的。この作品展を契機として、「全国高校生卒業設計コンクール(仮称)」の実現につなげていきたいと考えている。

信新聞社北関東支局が後援する。今回の作品展は、全国高校生卒業設計コンクール(仮称)への発展を視野に入れた取り組み。

同研究会製図分科会が12日に開いた職員研究協議会(第4回建築系教員のための建築製図指導研修会)で、作品展の実施要領(案)が報告された。

「高校生のレベルの高さと豊かな想像力を多くの人たちを確認してほしい。建築系工業高がさらに活気づくきっかけになればと期待している」(製図分科会主査・小島聡千葉県立東総工業高教諭)。全国工業高等学校長協会、日本建築家協会関東甲信越支部、建設業振興基金、日刊建設通

組み。製図分科会では、同コンクールの実施を検討するため、今後、会員校などを含め、全国的にアンケートを実施し、卒業設計の実施やコンペの参加状況を把握する方針。同研究会がコンクールを主催するのは資金面で不可能としており、アンケートの結果を基礎データとして、企業や各種建築専門団体との企画提案交渉に臨みたいとしている。

# 第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

## 研究協議資料

2009年3月12日(木)

### プログラム

- 13:00 受付
- 13:30 開会式
- ・ 製図分科会主査挨拶
  - ・ 会場校挨拶
- 14:40 事例発表
- ・ 建築設計競技指導への実践報告 村井和幸先生  
(新潟県立新発田南高校)
- ーはじめての挑戦・入選を目指してー
- ・ 設計製図指導事例報告 小関茂雄先生  
(千葉県立東総工業高校)
- ー全国高校生建築設計製図コンクールから道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール指導についてー
- 15:30 質疑応答
- 15:40 製図分科会から報告
- 15:50 講評・閉会式
- 16:00 散会 (以降自由参加)
- 16:10 作品見学
- 16:40 会場校施設見学

### 東日本建築教育研究会製図分科会委員 (平成20年度)

主査	小島 聡	(千葉・東総工業高校)	建設科)
副主査	吉城 守	(埼玉・春日部工業高校)	建築科)
委員	櫻井 良明	(山梨・甲府工業高校)	建築科)
	國島かほり	(神奈川・向の岡工業高校)	建設科)
	笹崎ひろみ	(東京・田無工業高校)	建築科)
	鈴木 浩之	(栃木・今市工業高校)	建設工学科)
	竹田 基	(埼玉・熊谷工業高校)	建築科)
	村井 和幸	(新潟・新発田南高校)	建築科)
	吉本 正樹	(群馬・高崎工業高校)	建築科)
	森嶋 真一	(山梨・峡南高校)	建築インテリア科)

## はじめに

製図分科会では、『初期製図教育の充実』と『成果確認の場』の設定により生徒の能力は伸びる』との仮説に従い、研究に取り組んでいます。その過程で「建築製図指導者研修会」の成果として、岩手大会(H19年度)にて平面図指導の「授業展開例」を提示いたしました。この展開例は、その『初期教育の充実』のための1つの案です。求める知識や技能(教師の立場)と求められる知識や技能(生徒の立場)の乖離(かいり)を埋めるためには、お互いが納得した基準が必要となるはずで、この共通基準の下で、生徒と教師が向かい合い「何ができて」、「何が出来ない」のかを明確にしながら授業を進めることが初期の段階で重要であると考えます。さらに北陸大会(H20年度)では、立面図・断面図の「授業展開例」を提示いたしました。

是非、各学校での実践の様子をお知らせ頂き、今後の研究課題とさせていただきますので、ご意見・ご感想をお待ちして生きます。

今後は『成果確認の場』として、「全国高校生卒業設計コンクール(仮称)」実現の可能性を模索しています。「初期教育」で基礎を固め、卒業時に学習の「成果」を広く校外の生徒と建築専門団体の目から評価を受けることは、生徒にとって大きな励みであり目標となることと思います。各地の建築関連団体による高校生作品の審査会が行われており、いずれの会場でも高校生のレベルの高さにプロ達は驚きの声を発しています。プロ達の受け入れ態勢は十分とはいえませんが可能性が無いわけではありません。私たち学校側からの積極的な発信さえあれば、可能な事ではないでしょうか! 「将来の地域産業を担う人材の育成」のために、先生方も積極的に建築関連団体とのコミュニケーションが必要なではありませんか。全国各地での様子を別紙にまとめましたのでご確認いただくと共に、各地での様子をお知らせ下さい。募集要項や審査の様子等の資料収集にご協力お願い致します。

建築では壁・屋根で囲い取られる空間の表現手段として製図があります。しかし、手法が同じだからと機械製図が優先し、建築製図が無視されたまま今日に至っています。精密な機械のためには精密な図面が描ければよいである。しかし、建築はただきれいな図面が描けても、豊かな空間把握の力は養えない。教養をその即物的な教授法の面から見る視野の狭さからの脱却が必要な時期にきていると考えます。そこで、本日の研修会では昨年の研修会に引き続き、中間期の指導としての「発想力」の育成に目を向けてみたいと思います。各地の大学等が主催している建築設計競技は、まさにこの「発想力」育成の確認場と位置づけることができるのではないのでしょうか。基礎を身につけ、発想力を育成することにより、卒業設計への取り組みが可能になると思います。そして、高校生活の集大成として「卒業設計」に取り組み、達成感と満足感をもって建設業界へ生徒を送り出しましょう。さらに、この卒業設計の評価をプロの建築家達から受けることができれば生徒達はよりいっそう自信を持って高校を卒業していくことでしょう。

今年の7月(埼玉大会開催時)には、これら全国の大学等で実施されている建築設計競技の優秀作品を集めた作品展を計画しております。是非ご来場いただき、高校生のレベルの高さと豊かな発想力をご確認頂ければと思います。

最後に、本日は中央工学校様の全面協力により、全国から集まった創作意欲あふれる作品を審査前に見学できる一般公開日に併せて研究協議会を開催させていただく機会を得られたことは、私たちの今後の指導に大いに役立つことと確信しています。中央校工学校関係者の皆様に感謝申し上げますと共に御礼を申し上げます。そして私たちは、今日この会場で感じた事を今後の指導に生かさなければなりません。生徒たちの知的好奇心を如何に刺激するかが、日常の授業に問われるのだと思います。

## 建築設計競技(コンペ)指導への実践報告 —はじめての挑戦・入選を目指して—

新潟県立新発田南高等学校  
建築工学科 村井 和幸

### 1 はじめに

本校では毎年、課題研究で「各種建築設計競技のテーマについて」一年間かけて取り組んでいます。選択する生徒は6、7名程度ですが、年を重ねるごとに発想豊かな作品が出来上がって来ているように感じています。実際にコンペに応募することとなると、締め切りが8・9月の早い時期で、それまでに多大な時間と労力が必要であり、応募する姿勢には消極的でした。

製図分科委員として分科会に参加させていただき、各学校の実践報告や取組み、先生方からのアドバイス等いただいたことから、コンペに対する意識が変わり、分科会で得た情報を活用し、積極的にコンペに参加して行こうと考えるようになりました。また、自分自身がコンペや製図コンクールに対するモチベーションを上げていくことで、生徒たちの建築設計製図に対する意識を高め、建築の楽しさをさらに知ってもらえるのではないかと考えました。

### 2 建築設計競技への取組み

今年度より、3年生の課題研究で建築設計競技班(コンペ班)を取入れ、2名の生徒が選択してきました。締め切りが8、9月であり、それまでに多くの時間を費やし、指導にあたりました。【課題研究2単位・放課後・昼休み・夏休み(8/1～8/31)約26日間】

### 3 応募生徒

建築設計コース(プロフェッショナルコース)2名(男子1名、女子1名)

### 4 建築設計競技の課題

日本建築協会「インターネットカフェ」

日本工業大学「天と地を結ぶ家」

### 5 結果

日本建築協会「インターネットカフェ」…………… 一次審査通過

日本工業大学「天と地を結ぶ家」…………… 該当なし

### 6 課題・反省

テーマが決まってから、指導者として自己研修をさらに深め、試行錯誤を重ねながらエスキスに取り組んでいましたが、ペース配分がうまく行きませんでした。また、今回は、パースを用いて建物を表現させましたが、各学校の入選作品を見ていると、すばらしい模型の作品が取り込まれており、今後、模型を用いて建物を表現するための指導力をさらに高めていくことが今後の課題と感じています。

### 7 最後に

今回、私は、初めての挑戦で、多くの不安の中でスタートしました。「限られた時間の中でいかにして自分の考えを明確に図面やパースなどで表現し、相手にその考えを伝えるのか。」を生徒自身に考えさせることについて大変苦労しました。また、それがコンペの難しさであり、魅力であることを実感することができました。多くの時間と労力を費やしましたが、最後には、生徒の表情に達成感と満足感を窺えることができました。生徒たちの発想力は無限の力が秘めていること、その力を掘りだし、育てていくことが大切だということをこのコンペの指導を通じて痛感しました。

今回は、2作品応募しましたが、そのうちの1作品が一次審査通過し、ささやかな一歩ではありましたが、私にとっては、何十歩も前進した気持ちになりました。この気持ちを大切に、生徒と共に建築の学習を楽しみながら、来年度以降も根気強く指導にあたっていきたいと考えています。

【建築工学科教育過程表】

建築設計コース(プロフェッショナルコース)				
科目	1年	2年	3年	単位数
工業技術基礎	3			3
課題研究			2	2
建築実習		2	2	4
建築製図		4	6	10
工業数理基礎		2	1	3
情報技術基礎	2			2
建築構造		3		3
建築施工			2	2
建築構造設計		2	3	5
建築計画		2	2	4
建築法規			3	3
産業と職業選択	2			2
合計	7	15	21	43

## 各種コンペの指導の実践報告について

## - 建設科3年生の2年間における取り組みについて -

千葉県立東総工業高等学校 建設科 小関 茂雄

## 1 はじめに

本校は、昭和38年に創立され、今年で44年目を迎える千葉県東総地域の工業高校で、電子機械科、電気科、情報技術科、建設科の4科を有し、卒業生は10,827名を数える卒業生を輩出しています。

卒業後の進路については、工業の専門分野での学習が生きることにより、本年度は就職、進学ともに良い状況にあります。求人難の状況下でも、安定した求人を確保している点も東総工業高校の強みであり、毎年多くの卒業生が上場企業等に幅広く就職しています。また、進学についても指定校制度を利用して、工業系大学への進学が堅実に増えています。

## 2 本校建設科について

建設科は2年生より、土木・建築のコース制が設置されている学科です。1年次の工業技術基礎や製図は、土木・建築の共通内容が多く、そのため、建築専門分野の学習を本格的に行うのは2年生からとなります。

教育課程でわかるように、建築計画が3年生の選択科目となっています。設計競技への参加を考えると建築計画での授業内容が必要になりますが、製図の授業を座学+実技の時間と考え、授業展開し、基本計画や全体計画などの基本的な手法について学習しながら進めていきます。

本報告については、H19年度より2年間の取り組みをまとめてみました。

建設科 建築コース 教育課程 H18年度入学生適用

教科等	科目等	1年	2年	3年
専門教育に関する各教科・科目	工業技術基礎	3		
	課題研究			3
	実習		3	3
	製図	2	2	2
	工業数理基礎	3		
	情報技術基礎	2		
	建築構造		2	
	建築施工		2	2
	建築構造設計		2	2
	建築計画			(2)
	建築法規			(2)
	測量	2	2	
	工業科目合計	12	13	12(4)

## 3 指導対象学年：H18年入学生 建築コース 17名（男子10名、女子7名）

## 4 建築設計競技の取り組み

## 実習

学年	内 容	時 間 数
2年	JW-CAD	3時間×3回
	マ体-メザイ-	3時間×3回
3年	JW-CAD(プレゼンテーションの仕方など)	3時間×2回
	卒業設計	3時間×7回

## 製図

学年	内 容	時 間 数
2年	建築系高校生対象コンペティション	2時間×7回
3年	道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール	2時間×7回
	全国高校生建築製図コンクール	2時間×8回
	卒業設計	2時間×8回

## 課題研究

学年	内 容
3年	立川ブライト 第10回 ブライト カラーコーディネートコンテスト 日本工業大学建築設計競技 卒業設計

課題研究については、全体の取り組みではなく、担当した班の内容です。

## 5 参加建築設計競技・結果

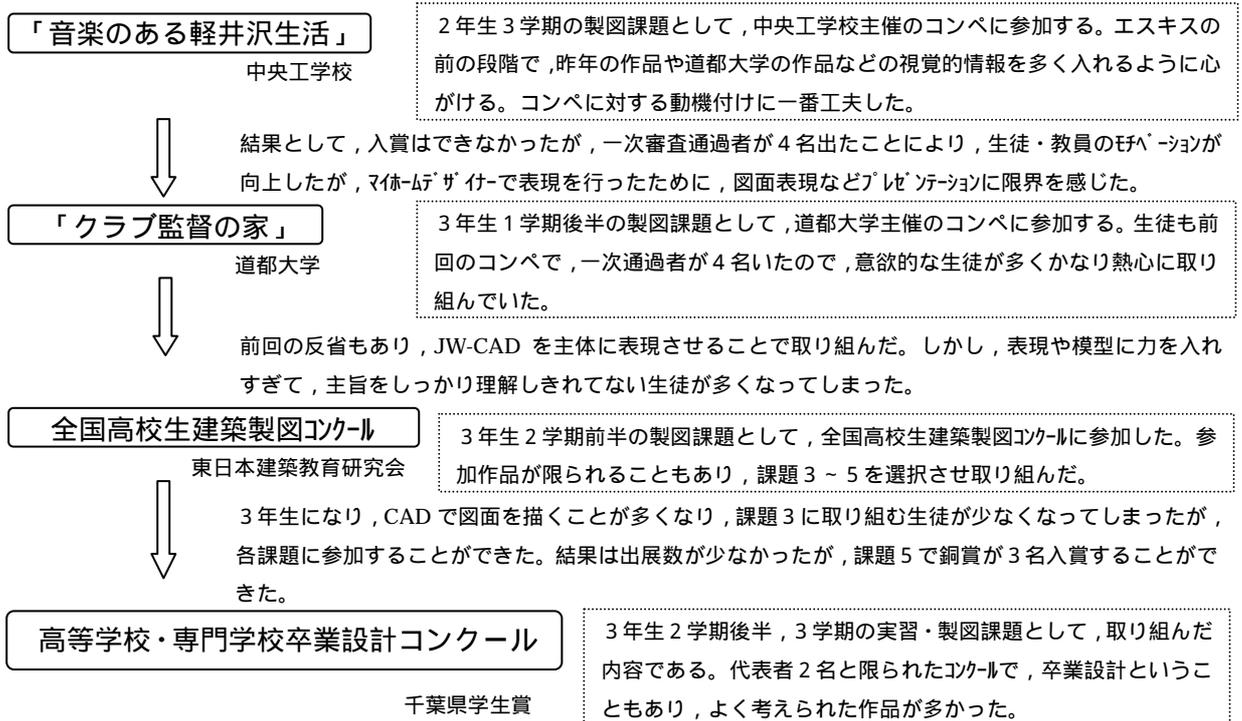
## 2年次

- ・第2回 建築系高校生対象コンペティション(中央工学校) 3月7日(金)締切  
「音楽のある軽井沢生活」 16作品提出 一次審査選出 4作品

### 3年次

- ・第5回 道都大学美術学部高校生住宅設計コンクール 7月22日(火)締切  
「クラブ監督の家」 14作品提出 該当無し
- (・第22回 日本工業大学建築設計競技) 8月31日(日)締切  
「天と地を結ぶ家」 3作品提出 一次審査選出 2作品
- ・第27回 全国高校生建築製図コンクール 11月10日(月)締切  
課題3, 課題4, 課題5に作品提出 課題5 銅賞 3名
- ・第21回 千葉県建築学生賞 「千葉県高等学校・専門学校卒業設計コンクール」  
2作品提出 作品審査 3月22日(日)

### 6 指導の経緯



今までの経緯があるので、生徒も内容の充実した作品を仕上げることができたと思われる。「千葉県高等学校・専門学校卒業設計コンクール」の結果がまだであるが、JW-CADを基本に表現させた。図面と模型製作で時間を使い、内観や外観パースなどの製作まで行わせることができなかったことが反省点である。

### 7 まとめ

2年間をとしての変化は建築設計競技への参加というものが身近に感じることができ、ある程度の手応えを感じることができたのが一番の収穫でした。生徒の感想を聞いても、外部の評価を得ることで、様々な個性的な考え、表現方法も理解してもらい、それに伴う達成感や充実感を感じている生徒が多かったです。今回の取り組みで、今後も継続して実施する意味や一定の成果があったと考えています。

今までのコンペ指導は自分の受験校に参加させる程度で、提出するだけというのが正直なところでした。しかし、今回の取り組みのようにある程度継続して参加させることで、結果的ではありますが、クラスから1次審査通過者が出ると、「次は自分」と全体の意識が向上し、設計競技への取り組み方の変化を実感することができました。

来年度以降の課題として、設計主旨の理解を深めさせ、「何がやりたいのか」をはっきりと表現させることが大切であること。また、図面や模型、パースなど個々の完成度は高めることもそうであるが、プレゼンテーション全体を通しての「バランス感」が重要ではないかと考えています。

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

①「建築系高校生設計製図講習会」夏期講習(生徒対象講習会)

③「設計製図指導者研修会」夏季研修(職員対象研修会)



東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

①「建築系高校生設計製図講習会」夏期講習(生徒対象講習会)

③「設計製図指導者研修会」夏季研修(職員対象研修会)

空間造形演習

長さ約180cmと約90cmの杉の角材150本と幅17mmの輪ゴムを組み合わせて造るリサイクル出来る演習です。



東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

②「建築系高校生設計製図講習会」冬期講習(生徒対象講習会)

④「設計製図指導者研修会」冬期研修(職員対象研修会)

冬季講習会では、「思いを伝える」をテーマに、図面表現の手法(フリーソフトによるプレゼンテーション技法)を身に付けることを目的に実施いたします。



東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

⑤「卒業設計・各種建築コンペ」に関するアンケート調査実施

各大学や専門学校が主催する設計競技(コンペ)

1 道都大学美術学部主催 高校生住宅設計コンクール	8 愛知産業大学主催 建築コンペティション
2 秋田県立大学主催 高校生建築提案コンテスト	9 九州産業大学工学部建築学科主催 九州産業大学設計競技
3 日本工業大学工学部建築学科主催 日本工業大学設計競技	10 日本文理大学工学部建築学科主催 日本文理大学建築デザインコンペ
4 東洋大学工学部建築学科主催 全国高等学校「住宅設計競技」	11 長崎総合科学大学工学部建築学科主催 全国高校生設計アイデアコンテスト
5 日本大学建築系学科主催 日本大学全国高等学校・建築設計競技	12 中央工学校・中央工学校OSAKA主催 建築系高校生対象コンペティション
6 工学院大学建築系学科主催 高校生の建築フレッシュ・アイデアコンペ	13 東京工学院専門学校主催 TECNOS DESIGN COMPETITION
7 名古屋工業大学エネルギー・環境教育研究会主催 「エネルギーと環境」コンペティション	14 その他

東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

⑤「卒業設計・各種建築コンペ」に関するアンケート調査実施

各種団体が主催する設計競技(コンペ)

1 日本建築協会主催 工高生デザインコンクール	9 JIA山梨クラブ主催 山梨県高校生卒業設計コンクール
2 日本建築学会北海道支部主催 卒業設計コンクール	10 山梨県林業振興隊主催 「甲斐の家アイデア募集」
3 北海道主催 高校生デザインコンクール	11 JIA群馬地域会主催 JIA北関東甲信越学生課題設計コンクール (工業高校の部)
4 北海道建築士事務所協会主催 「北の住む住宅設計コンペ」	12 愛知県建築士会主催 学生コンペ
5 宮城県建築士事務所協会主催 みやぎ建築未来賞	13 JIA東海支部主催 JIA東海支部設計競技
6 群馬県工業教育研究会主催 建築展	14 建通新聞社主催 「静岡県立工業高等学校卒業設計優秀作品展」
7 千葉県建築士会協議会主催 千葉県高校・専門学校卒業設計コンクール	15 オダケホーム(株)主催 北陸の家づくり設計コンペ
8 JIA長野クラブ主催 長野県学生卒業設計コンクール	16 日本建築学会近畿支部主催 卒業設計コンクール

東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

⑤「卒業設計・各種建築コンペ」に関するアンケート調査実施

17 日本建築学会中国支部主催 卒業設計コンクール	21 くまもと木造住宅推進協議会主催 「くまもと木造住宅ユニバーサルデザインコンペ」
18 佐賀県建築士会主催 設計競技大会	22 JIA沖縄支部主催 卒業設計作品選奨
19 福岡県建築士事務所協会主催 福岡県内建築設計競技	23 その他
20 大分県建築士事務所協会主催 卒業設計コンクール	



東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

⑥「全国高校生建築設計競技優秀作品展2009」実施について

東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12

第4回 建築科教員のための建築製図指導者研修会

製図分科会からのお知らせ

⑦書籍の紹介

東日本建築教育研究会 製図分科会 2009.3.12